



降るだけ降らなければ，春は来ない。

シベリヤに戻りかけた冬将軍が忘れものでも取りに戻ってきたのか，と思うような寒の戻りそのものの大荒れの冬将軍が2月下旬から3月初旬にかけて，北海道に居座って，これでもかとはかり荒れに荒れて，空路・鉄道・海路・高速路の運休，長時間の停電が続いた。もう大丈夫と思った後だけにうんざりしたり，がっかりしたりで，やっぱり北海道には降るだけ降らなければ，雨水になっても，^{けいちつ}啓蟄をむかえようと，24節気程度では，北海道には春は来てくれないのかと，しみじみと思い知らされた。それでも，3月11日には，中国からの春の使者の黄砂のニュースが報じられたり，彼岸の月でもあり，この原稿が活字になるころには待ちに待った北国の春を迎えられるのではとしみじみ思う。

(雨田 実記)